



1型糖尿病を考える全国シンポジウム

新しい医療技術がもたらす1型糖尿病治療の進歩

1型糖尿病は、日本での年間発症率は、10万人あたり1～2名といわれる希少な病であり、現在のところ、膵臓移植や膵島移植を受けるか、生涯にわたって毎日数回のインスリン自己注射またはポンプによる注射を続ける以外に治療法がありません。

こうした希少な病であるがゆえに、患者自身の思い、家族の不安、社会での受け入れ体制等の様々な課題があります。そこで今回は、患者や家族が安心して過ごせるよう、この病気の課題克服に向けて、新しい医療技術がもたらす1型糖尿病治療の進歩について考察します。

平成22年

1月30日土・31日目

会場 **ひと・まち交流館 京都**
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1

参加対象 ▶ 全国の1型糖尿病患者、家族、医療関係者、行政、広く一般の方々

参加費 ▶ 会員/500円 非会員/1,000円
(ただし、第2分科会は食事代500円程度を別途負担)

後援 ▶ 厚生労働省、京都府、京都市、
日本製薬工業協会(申請予定)

1/30
土

シンポジウム
10:00～16:30【定員:300名】
(先着順)

持続血糖測定器(CGM)とは?

講師 ▶ 独立行政法人国立病院機構京都医療センター
糖尿病センター 村田 敬

脳内膵移植

～生活にあわせてインスリンを打ち分けられるようになる～

講師 ▶ 大阪大学医学部附属病院
内分泌・代謝内科 黒田 暁生
(1型糖尿病患者)

幹細胞を用いた膵β細胞の 再生医学研究の現状

講師 ▶ 熊本大学発生医学研究所
幹細胞部門 多能性幹細胞分野 教授 桑 昭苑

インスリンポンプ

講師 ▶ 若草第一病院小児科、大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室
広瀬 正和

1型糖尿病専門外来と低血糖予防

講師 ▶ 独立行政法人国立病院機構京都医療センター
糖尿病センター予防医学研究室長 坂根 直樹

*1型糖尿病にかかわる医療機器など関連製品を展示します。

1/31
日

分科会

(第一分科会) 10:00～16:00【定員:40名】先着順
※定員の内訳:患者又はその母親が20名、看護師・助産師が20名

共に語ろう

糖尿病を持つ女性の性と妊娠・出産

～糖尿病女性が、看護職者が、思うこと～

講師 ▶ 大阪府立母子保健総合医療センター母性内科副部長
和栗 雅子

コーディネーター ▶ 久留米大学医学部看護学科講師
田中 佳代

(第二分科会) 10:00～16:00【定員:80名】先着順

カーボカウントとインスリンポンプ療法

講師 ▶ 大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室
川村 智行

注)カーボカウントを実践するため昼食を準備いたしますので、
参加費とは別に実費(500円程度)をご負担いただきます。

(第三分科会) 10:00～12:00【定員:30名】先着順

高齢1型糖尿病患者の交流会

講師 ▶ 大石内科クリニック院長 大石 まり子

主催 ● 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク 共催 ● 京都つぼみの会・京都ヤングの会